

熊本県産イチゴを輸出

比国向け輸出解禁受け

専門商社の南山物産

日本産イチゴのフィリピン（比国）向け輸出が、昨年12月15日付けで正式に解禁されたことを受け、酒類を中心とした輸出を手掛ける専門商社の南山物産（中山大希社長、東京都杉並区）は、熊本県産の高品質なイチゴの輸出プロジェクトを開始した。

三越BCG内のスーパーマーケット「MITSUKOSHI FRESH」で販売された（写真）。6日～26日には、「春のイチゴフェア」と題し、日本産イチゴやイチゴを使った日本産食品加工品のプロモーションを実施した。

第1弾として、農業法人イチゴラス（森川竜典社長、熊本県玉名市）が出荷した「淡雪（AWAYUKI）」を輸出。今月4日には比国での輸入通関を完了し、マニラの

「淡雪」は、ほんのりピンクがかった白イチゴで上品な甘さと優しい酸味が特長。美しい見た目と希少性から日本国内外の高級市場でも人気が高い。今後は、同県産の「ゆうべに」「恋みのり」

についても順次輸出を進め、4月には店頭に並び予定。



比国向けのイチゴ輸出は解禁されたばかりで事前情報が少なく、手続きの不明瞭さなど課題も多かったが、農水省や生産者

らと連携し、酒類貿易で培った商品管理・貿易実務の経験を活かして輸出を実現した。